

平塚製造所CSRレポート

事業内容: 航空機用部品、スポーツ用品、各種接着剤・シーリング材、コンベヤベルト、マリンホース、防舷材、その他各種工業品などの製造およびこれら製品に関する基礎研究および設計・開発

敷地面積: 999,000m²(ハマタイト工場、D-PARC、T*MARYを含む)

従業員数: 1,710人(2010年3月現在)

所在地: 〒254-8601 神奈川県平塚市追分2番1号

相談・苦情などの受付窓口

平塚製造所業務G(環境管理事務局) TEL: 0463(35)9501



製造所長ご挨拶



西田 敏行

平塚製造所では「社会に対する公正さと環境との調和を大切に」を規範に、横浜ゴムの中期経営計画「GD100」の基本方針の一つ「トップレベルの環境貢献企業」達成に向けた環境方針を掲げています。

この方針の下、今まで進めてきた環境負荷発生量の極小化による高い発生抑制への対応をさらに向上させると同時に、行政・地域の皆さまとのさまざまな活動やコミュニケーションを通じて「地域になくしてはならない防災や安全、環境浄化の機能を持った事業所に創りかえる」ことを目指

しています。2009年度はコンプライアンスの徹底を基本に「防災・安全レベルの向上」、「地域貢献」、「地域コミュニケーション」の3つを主体に置き、県立平塚盲学校や地域自治会への平塚防災インストラクター主体の防災訓練指導、地域行事への参加、電気自動車組立て体験教室、第6回地域コミュニケーションなどを実施しました。また、自然環境の保護と地域の皆さまとの共生を目的に継続している「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトは、これまでに29,006本を植樹し、全国植樹祭(秦野市)向けに1万5千本の苗を寄贈しました。今後もこうした活動を継続する中で平塚市の中心に位置する化学工場であることを肝に銘じ、地域発展・共生に貢献していきたいと考えています。

環境への取り組み

2010年度環境方針

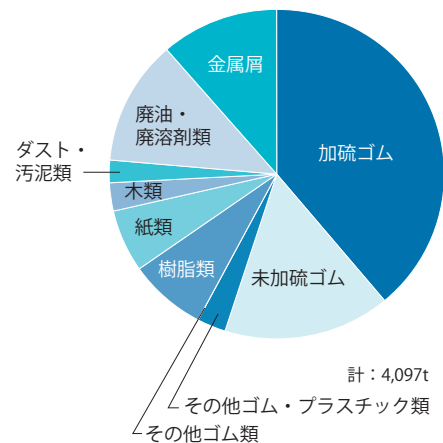
横浜ゴム株式会社は「トップレベルの環境貢献企業」を目指す

- (1) 環境経営の持続的改善を実現するため、平塚製造所を構成するすべての部門・関連企業において、自ら定めた環境マネジメントシステムに従い、手順を確立し、維持改善する。
- (2) 心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献し、社会的責任として「環境に貢献する改善」と「環境リスクの予防」を継続的に企画し、実践する。
- (3) 関連する法規制および同意した協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
- (4) 限りある地球資源を守るため、そのムダ使いを防止する行動(MD)を実践し、3R※を推進する。
※Reduce: 発生抑制、Reuse: 再使用、Recycle: 再生使用
- (5) 本方針を具現化するため、環境に影響を与える製造所の本来業務を自覚し、環境目的・目標及び計画を作成し、実行する。
- (6) 平塚製造所で働くすべての人が、本方針を理解し行動するよう教育と啓蒙を行い周知徹底する。
- (7) 湘南平塚のおおらかな自然との調和・融合をもとに美しく豊かな社会形成に貢献し、地域との共生を目指す。
- (8) 本方針は、公開する。

廃棄物の種類(2009年実績)

廃棄物については、すべての種類において、サーマルもしくはマテリアルリサイクル(再生、固型燃料、炉板材等)を行い、100%再資源化を達成しています。

製造所廃棄物内訳



環境への取り組み

PRTR対象物質

(単位:トン/年)

平塚製造所

政令 番号	対象化学物質	取引量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価 IV-2			
					有害性 ランク (人)	年間換算 排出量 (人)	年間換算 排出量 (生態)	
9	アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	34.315	0.000	1.739				
16	2-アミノエタノール	1.345	0.000	0.052				
24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 及びその塩	2.028	0.000	0.102				
25	アンチモン及びその化合物	8.564	0.000	0.342				
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	56.917	0.000	1.150				
40	エチルベンゼン	1.053	0.073	0.000	C	0.7	A	73.0
45	エチレンジグリコールモノメチルエ ーテル	18.604	3.836	14.768	B	383.6	D	3.8
63	キシレン	4.845	1.908	0.000	C	19.1	A	1907.6
100	コバルト及びその化合物	74.852	0.000	0.072				
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾ チアゾールスルフェンアミド	92.104	0.000	1.862				
129	ジウロン又はDCMU	2.646	0.000	0.277				
177	スチレン	2.220	0.000	0.478				
198	ヘキサメチレンテトラミン	2.449	0.170	0.114	C	1.7	D	0.2
204	チウラム又はチラム	2.144	0.000	0.108				
227	トルエン	13.212	5.014	2.722	C	50.1	D	5.0
266	フェノール	2.631	0.000	0.130				
270	フタル酸ジ-n-ブチル	7.595	0.000	0.383				
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	59.039	0.000	2.992				
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾ チアゾールスルフェンアミド	54.814	0.000	0.171				
総合計		441.376	11.000	27.462		455.2		1989.6

(単位:トン/年)

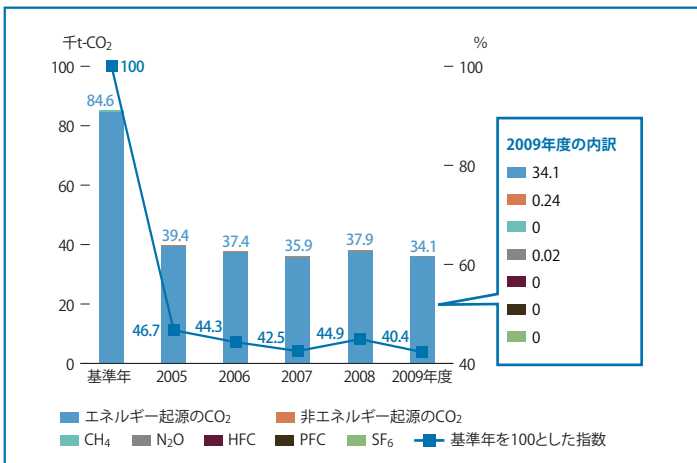
ハマタイト工場

政令 番号	対象化学物質	取引量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価 VIII-4			
					有害性 ランク (人)	年間換算 排出量 (人)	年間換算 排出量 (生態)	
24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸	1.600	0.000	0.011				
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	68.071	0.000	0.749				
40	エチルベンゼン	2.036	0.004	0.016	C	0.04	A	4
63	キシレン	18.302	0.037	0.146	C	0.37	A	37
93	クロロベンゼン	13.784	0.000	0.006				
120	MOCA	72.000	0.000	0.000				
176	有機スズ化合物	16.419	0.000	0.525				
204	TT	3.900	0.000	0.035				
227	トルエン	49.535	0.643	4.923	C	6.43	D	0.643
230	鉛及びその化合物(一酸化鉛)	1.445	0.000	0.000				
266	フェノール	14.764	0.000	0.118				
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	52.023	0.000	0.422				
273	フタル酸n-ブチル=ベンジル	266.025	0.000	0.133				
293	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	4.662	0.000	0.000				
300	1,2,4-ベンゼントリカルボン酸1,2- 無水物	1.625	0.000	0.000				
311	二酸化マンガン	36.372	0.000	0.327				
338	m-トリレンジイソシアネート	261.788	0.000	0.000				
総合計		884.351	0.684	7.411				

- 1: 取引量は1トン以上を記載(ダイオキシン類を除く)ただし、ベンゼン等の特定第1種指定化学物質は0.5トン以上を記載
2: 排出量=大気+公共用水域+土壌
3: 移動量=廃棄物+公共下水道

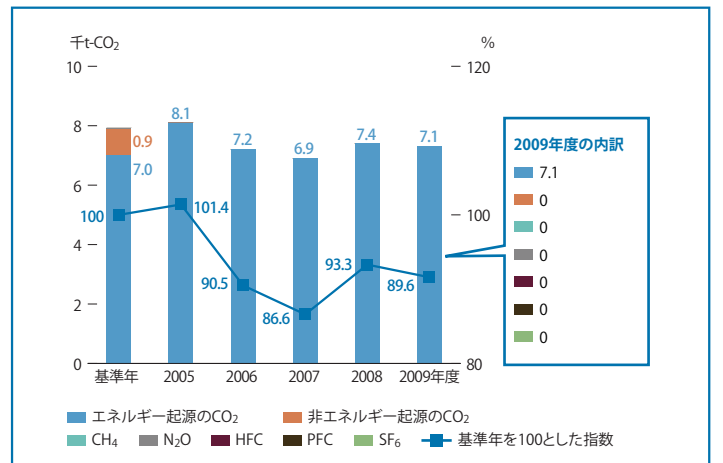
温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

平塚製造所



※基準年: 1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF₆は1995年としています。
※温室効果ガス(GHG)の算定方法: 環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境省公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。また、温対法改正(2010年3月31日)に伴い、燃料種別の発熱量と排出係数を見直しました。

ハマタイト工場(基準年比では11%削減)



※基準年: 1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF₆は1995年としています。
※温室効果ガス(GHG)の算定方法: 環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境省公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。また、温対法改正(2010年3月31日)に伴い、燃料種別の発熱量と排出係数を見直しました。

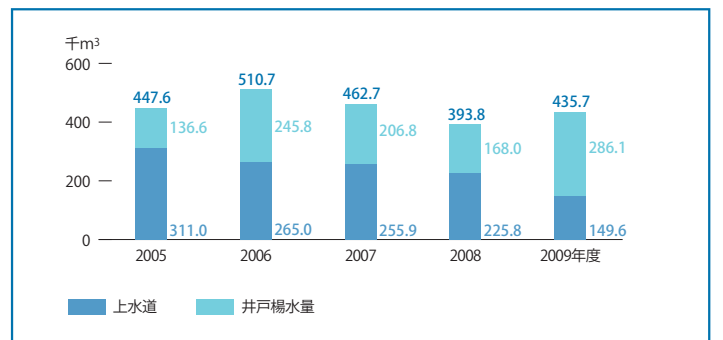
水質関係測定データ(主要排水)

規制値および自主管理値の範囲内で管理されている。

排水口	項目	規制値	自主管理値	2009年度実績		
				平均値	最大値	最小値
平塚製造所	PH	5.7~8.7	5.8~8.6	7.4	8.1	6.1
	BOD濃度 (mg/l)	300	285	49.3	210	6.0
	COD濃度 (mg/l)	300	285	33.3	100	1.0
	SS濃度 (mg/l)	30	28.5	2.9	8.0	1未満
ハマタイト工場	PH	5.7~8.7	5.8~8.6	7.4	8.0	7.0
	BOD濃度 (mg/l)	300	285	36	94	18
	COD濃度 (mg/l)	300	285	46	130	8
	SS濃度 (mg/l)	30	28.5	3	4	1

※平塚市下水道条例に準拠

平塚製造所(ハマタイト含む)水使用量



環境への取り組み

■大気関係測定データ(主要施設)

規制値および自主管理値の範囲内で管理されています。

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2009年度実績		
				平均値	最大値	最小値
平塚製造所 1号~4号ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	80	76	68	73	64
	ばいじん量(g/h)	371	352	1.4	3.8	0.3
平塚製造所 5号~6号ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	45	42.8	36	40	30
	ばいじん量(g/h)	463	440	2	3.2	0.9
平塚製造所 コージェネレーション	窒素酸化物濃度(ppm)	20	19	17.3	19	16
	ばいじん量(g/h)	2,176	2,067	38	63	9
ハマタイト工場 1号ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	60	57	19	20	18
	ばいじん量(g/h)	272	258	1	1	1
ハマタイト工場 2号ボイラー	窒素酸化物濃度(ppm)	60	57	23	28	18.3
	ばいじん量(g/h)	180	171	1.4	1.5	1.3

※大気汚染防止法、神奈川県条例に準拠

焼却炉施設廃止状況：

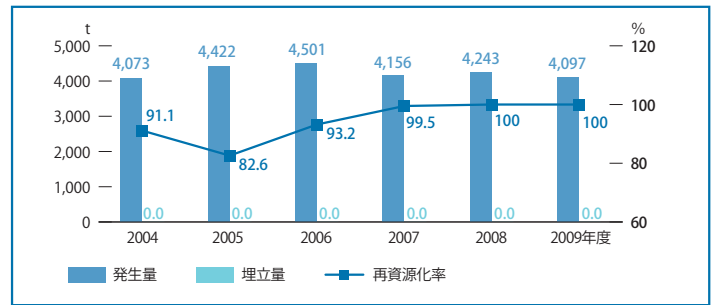
平塚製造所(ハマタイト工場) 廃プラ焼却炉：2002年11月廃止

平塚製造所(ハマタイト工場) 紙焼却炉：2002年11月廃止

■廃棄物データ(ハマタイト含む)

2004年度より完全ゼロエミッションを継続しています。

2008年度再資源化100%を達成し、2009年度も継続しました。



安全への取り組み

2010年度安全方針

スローガン

身につけよう 基本作業とプロ意識 みんなで築く安全職場
(中央労働災害防止協会年間標語)

安全衛生基本理念

安全衛生は全ての基本である管理者と監督者の強力なリーダーシップと全グループ従業員の協力の下に労働災害防止と快適な職場づくりと健康づくりをめざす。

目標

- 全体目標・・・①休業災害・不休災害ゼロ化
「止める・呼ぶ・待つの定着」・「徹底した水平展開」
②交通事故、人身加害ゼロ化・業務上交通事故ゼロ化
③OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)の認証取得

安全衛生方針

- 全グループ従業員一人ひとりが安全を全てに優先させ、全ての職位・職種の参加と行動と協力の下に、安全活動の向上を図る
 - 職場の一人ひとりは職場の決め事を守り安全に徹した作業を行う
 - 管理者・監督者は不安全状態・行動を見逃すことなく部下の安全を守る責務を負う、また行動に当たっては安全に対する自らの姿勢を明確に示すと共に三現主義(現場・現物・現実)に徹し職場の実態を自ら把握する
- 安全衛生に係る法令・行政指針への積極的な適合を図る
- 労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)により、作業と設備に係わる潜在的危険を排除するためPDCAを回し、経済的なリスク低減を図る
- “整理整頓は安全衛生の基本である”との考えをもとに3Sを徹底する
- 全グループ従業員に対して、安全衛生の重要性を周知し、必要な教育・訓練を実施する
- 安心して働ける快適な職場環境づくりを推進するとともに、従業員の健康づくりを積極的に支援する
- 自動車産業の一翼を担う企業として、交通事故防止に取り組む

行動指針

身近な小さな変化・異常に気づきいち早く正常な状態に戻す。

安全防災への取り組み・教育訓練・災害時の対応

労働災害の防止については、リスクアセスメントを徹底し厚生労働省指針に基づいた「労働安全衛生マネジメントシステム」の認証取得に向けた活動、また防災については緊急地震速報、安否確認システムを導入し、全員対象のAEDを含めた普通救命講習を自前で行うなどの活動を展開しています。

そして、環境・安全衛生・防災に関する法的要求事項を順守し、各種資格取得や教育活動を積極的に推進し、火災や自然災害はもとより化学物質の漏えいなどの緊急事態を想定し、マニュアルや対応手順を作成して訓練を行うなど人材育成と災害防止に努めています。

所内での主な訓練・教育

2009.5.13	有機溶剤準特別教育
2009.5.26～28	ドライビングシミュレータ訓練
2009.6.16	フォークリフト運転講習会
2009.6.24	緊急地震速報放送訓練
2009.7.13	二輪車安全運転講習会
2009.7.24	危険物防災講習会
2009.7.27	メンタルヘルス講習会
2009.8.10	電気使用安全講習会
2009.9.1	FM湘南ナバサ安否情報放送訓練
2009.9.23	第2回メンタルヘルス講習会
2009.11.9	総合防災訓練
2009.11.12	第2回フォークリフト運転講習会
2009.11.4～13	交通安全講習会
2010.2.19	防災保安講習会
2010.3.23	防災研修会
2010.4.12	安否確認訓練
この他随時実施	体感訓練訓練(1664人)、普通救命講習会(117人)

これまで寄せられた主な意見や苦情と対応内容

地域コミュニケーションを重要視していること、過去騒音苦情を経験していることから、環境問題への配慮は欠かしていません。臭気・騒音については近隣住民の方にモニターをお願いし、毎月深夜に騒音測定を実施、近隣境界での工事や作業変更に対しては事前協議により環境問題が発生しないような注意を促しています。

近隣自治会コミュニケーション会の開催

2010年2月、工場周辺の4自治会の方々 36人を製造所に招いて「第6回近隣自治会コミュニケーション会」を開催しました。1年間の環境・防災活動やトラブルをすべてご報告し広く意見を伺う機会にしています。また、各種団体の工場見学を受け入れ交流を図っています。



近隣自治会コミュニケーション

電気自動車組立て体験教室

2009年11月、平塚市崇善小学校の6年生を対象に、日本EVクラブとの協賛で電気自動車に触れることで地球環境問題を理解し、ものづくりを楽しむ教室を開催しました。



地域防災訓練の支援

平塚市の防災インストラクターに30人(平塚市全体で52人)を登録しており、2009年7月の危険物安全協会Cブロック防災訓練、11月の立野町・浅間町合同防災訓練、平塚盲学校防災訓練支援などの消火訓練・救命講習の指導・支援を行っています。



盲学防災訓練

地域伝統行事への参加、地域貢献

平塚七夕祭りや環境フェア、相模川清掃活動など、地域行事の活性化、環境ボランティア活動にも協力しています。

2009.7.7	平塚七夕祭りへの参加
2009.7.29	危険物安全協会Cブロック防災訓練支援
2009.7.23～28	平塚環境フェアへの参加
2009.8.10	物づくり教室
2009.10.22～24	平塚市テクノフェアへの参加
2009.10.23	平塚市消火競技大会への参加
2009.11.5	相模川清掃活動参加
2009.11.8	立野町・浅間町防災訓練支援
2009.11.13	平塚盲学校防災訓練支援
2009.11.28	電気自動車組立て体験教室
その他毎月実施	構外清掃活動(2009年度 延べ719人参加)



七夕祭



物づくり教室



平塚テクノフェア



消火競技大会



自治会防災訓練

平塚製造所記念館、文化施設として再スタート

横浜ゴムが2004年に神奈川県平塚市に寄贈した横浜ゴム平塚製造所記念館の移築復元工事が終了し、2009年4月から平塚市の文化施設として開館しました。

施設名は旧横浜ゴム平塚製造所記念館。移築場所は平塚市浅間町の八幡山公園で、一般公募により愛称は「八幡山の洋館」に決定しました。同記念館は平塚市で唯一、県内でも数少ない明治期の西洋建築物で、現在、国の登録有形文化財に指定されています。資料館としての要素も備えており、館内には自由に見学できる展示室や応接室のほか、ピアノのミニコンサートもできる第1会議室、多くのダイニングテーブル

ルがある第2会議室、厨房を整備している。一般の方もサークル活動などで利用できます。



平塚製造所記念館



「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトとは、横浜ゴムが創業100周年を迎える2017年までに、国内外の生産拠点に合計約50万本の植樹を行い「杜」を作るプロジェクトです。2007年11月の平塚製造所での植樹祭を皮切りに本格的にスタートしました。

2007年11月：第1期植樹祭(3,500人参加、27,000本植樹)

2008年10月：第2期植樹祭(150人参加、1,481本植樹)

2008年11月：育樹祭(1,200人参加)

2009年11月：第3期植樹祭(100人参加、843本植樹)

毎年11月11日をThink Eco Hiratsuka(環境を考える日)に設定、130人が参加し宮脇先生による講演会を開催しました。

2010年3月：平塚製造所構内植樹 430本(20人)

2010年3月：第61回全国植樹祭(秦野市)向けに製造所で育ててきた15,000本の自前の苗を寄贈し感謝状を授与されました。



寄贈苗の目録を手渡す伊澤製造所長(当時)と古谷市長

参加従業員の声：岸本 健司

植えた木の成長を見るたびに、杜をつくる使命感と参加できたことへの誇りを感じます。これは自分たちのためではなく、子孫のための活動です。成果はすぐには表れませんが、意識をずっと保ち続けていきたいと思えます。

事務局コメント：工藤 恭久

2009年より事務局として千年の杜プロジェクトに携わっています。平塚製造所では、2007年の第1期植樹祭を実施して以来、これまでで27,850本の苗木を植樹。参加者は延べ3,620人に上ります。これからは、どのような形で全員参加型のイベントを継続させていくか、社内外の皆さまからお知恵を拝借し、この「いのちの杜づくり」の輪が途切れないように力を尽くしていきたいと思えます。

